

## 木材価格市況標準相場

令和6年4月4日

東京木材問屋協同組合  
価格市況調査委員会

## ○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	9
広葉樹材	7
南洋材・中国材	1
北洋材・北欧材	1
(2) 値下げ品目	4
国産材構造材	2
米材製品	2

## ○今月の市況動向

3月の商況は、先月に引き続き低調との報告が大半を占めた。しかし、コストは確実に上昇している。特に輸入材では、現地価格・為替・海上運賃の全てが逆風状態。国内の「物流2024年問題」による運賃UP幅は、検討中・交渉中との回答が多かったが、値上げは既定路線と言えよう。

(国産材)構造材の荷動き不振は長期化しており、B/L単位の品目が値下げとなった。役物、注文材は比較的動いているとの報告。全体的に住宅関係が不振で、店舗・舞台・イベント関係が動いている。

(輸入材)広葉樹材において、良材の品薄・現地価格上昇・円安が続いており、全品値上げとなった。ホワイトオークに関しては、更なる現地価格値上げの提示があったとのこと。南洋材で値上り品目となったメルクシーパイン集成材も、現地価格が高くて新規契約を絞っていた結果、定番サイズでも欠品になる在庫状況との報告。赤松40×30の上級グレードについても品薄感と先々の入荷コストUPにより値上げとなった。プレカット工場の稼働率が非常に悪く、米松製品の荷動きも鈍い。他樹種への移行が進んだこともあり、小割2品目で下げとなった。

(合板)国内針葉樹合板では、複数のメーカーから価格値戻しの発表を受けて、半年間続いていた値下がりが止まった。しかしながら今後の実需回復には不安もあり、メーカーが減産を維持して、価格を維持出来るかの対応を注視したいと報告があった。輸入合板では、港在庫は減少しているが、当用買いが続いているとのこと。